

以下の指示に従って、答案を作成しなさい。

### 課題1 文章要約

下の課題文を読み、内容を要約しなさい（100字以内）。

### 課題2 小論文

人はなぜ旅をするのだろうか。あなた自身のこれまでの旅の経験や、これからやってみたいと思い描いている旅の計画、もしくは身近な人や書物等から聞き知った体験談などを具体例として挙げながら、人が旅をする理由や目的、意味や意義について、あなたの考えを述べなさい。小論文にふさわしい構造や展開を練り、根拠を示しながら論述すること（600字以上800字以内）。

#### 【課題1 課題文】

情報時代を迎えた今、私たちは情報によって未来の時間を先取りするようになった。数カ月先の旅行のスケジュールを事細かに決めて飛行機やホテルを予約する。コンサートやスポーツ大会のチケットを早めに予約し、会議の予定と共にカレンダーに書き込む。私のカレンダーも1年先まで様々な予定で埋め尽くされている。そのための準備をいつも頭に入れておかねばならないから、実は未来を先取りしているようで、逆に未来に現在の時間を奪われているとも言える。科学技術の発達と情報化の時代に自分の自由な時間が増えると思っていたのに、さらに忙しく窮屈になったと感じるのはそのせいではないだろうか。

しかし、先取りしたはずの未来はますます不安定になる様相を示している。大気や海洋の温暖化によって気候変動が顕著になり、想定外の大雨、洪水、干ばつ、森林火災が頻発し、地震や津波もその規模を増している。ロシアのウクライナへの軍事侵攻もハマスとイスラエルの軍事衝突も解決の糸口は見えないままだ。これらの事態によって小麦を始めとする食物の流通が影響を受け、物価は値上がりし続けている。果たして私たちが操作し、予測したような未来が訪れるのだろうか。

私たちの弱みは、操作できない自然の営みによってもたらされる災害に対処できていないことにある。南海トラフを始めとする大地震が近未来に起こると予測されているのに、危険地域からの移動計画も防災体制も完備しているとは言い難

い。自然の時間の流れを無視して人工的な時間を優先すれば、自然の猛威に対処できなくなる。現代の大都市中心の暮らし方は、いずれ大きな災害や破壊を招くだろう。

そうした危機を防ぐためには、自然の時間に寄り添った暮らしを取りもどす必要がある。無理に予定を詰め込まず、天気を見て日々の行動を決める余裕や、自然の変化に応じて柔軟に予定を組み替える心構えがほしい。都市を離れ、自然の時間に寄り添える場所に身を置く機会をもつべきだ。

山極寿一「自然の時間を無視した文明—先取りした未来は、訪れるのか」

(朝日新聞「科学季評」2024年3月14日) より